

大地震による災害への備え

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいことです。地震がおきても「あわてず、落ち着いて」行動する為に事前の備えと地震発生時およびそれ以降の行動パターンを覚えておきましょう。



三島市地震防災マップ

Mishima City Earthquake Hazard Map

保存版

梅名、川原ヶ谷の一部、北沢、大塚、竹倉、玉沢、多呂、塚原新田、鶴嶺の一部、中の一部、中島、長伏、鈴が丘、八反町、東大塚、松が丘、松本、御園、安久、谷田の一部、柳郷地

自助

自分で自分や家族を守る

- 自宅の耐震診断・補強、家具の固定
- 地震が起きたら、どう行動するか
- 地域の特性や避難所の場所などを確認
- 食料と水の備蓄
- 非常持出品の準備と保管場所
- 災害時の連絡方法

共助

助け合って守る

- 地域の防災活動
- 皆でまちの安全点検
- 事業者と地域の連携
- 災害時は、助け合って救出、初期消火

公助

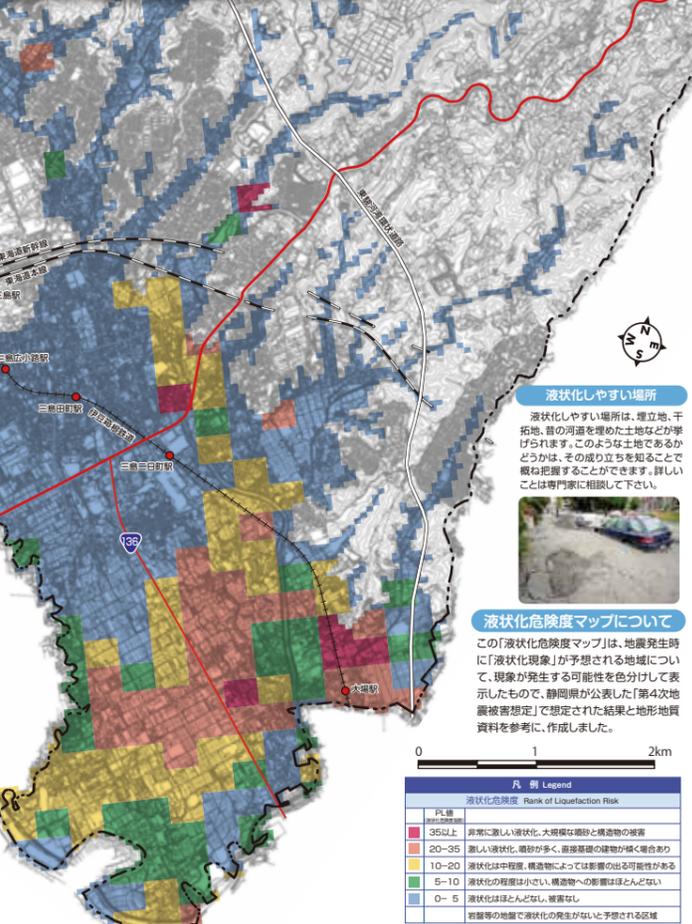
行政による防災・減災対策

- 公共施設を整備・拡充し、災害に強いまちづくりを推進
- 自助・共助を支援し、地域の安全を確保する

阪神・淡路大震災や東日本大震災などのこれまでの震災では地震発生直後の住民同士による助け合いによって多くの命が救われ、発災時における自助・共助の重要性が明らかになりました。「自らの生命は自ら守る」「自らの地域は皆で守る」ことを念頭に、地域の防災力を向上させましょう。

お問い合わせ先 **三島市役所 都市整備部 建築住宅課**
 〒411-8666 静岡県三島市北田町4-47 TEL 055-983-2644
<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/> 初版発行 平成26年3月 改訂 平成29年2月

液状化危険度マップ



事前の備え

いざという時に身を守り、困らないためにも日頃からの備えが大切です。

備蓄品	非常持出品
<ul style="list-style-type: none"> ティッシュペーパー ウエットティッシュ ロープ ランタン (停電時の照明) 携帯トイレ ペットのえさ ビニール袋 (雨具、敷物・トイレ) カセットコンロ (炊飯できる) サランラップ 	<ul style="list-style-type: none"> 現金・貴重品 厚手の手袋 食糧品 (備蓄は7日分) 懐中電灯・携帯ラジオ ライター・マッチ 飲料水 (備蓄は1人1日 最低3リットル) 救急医療品 ●お薬手帳 ●生理用品 常備薬 防寒衣(上下) 衣服 (長袖・長ズボン) 寝袋 携帯カイロ 毛布 長靴

● 精神的に防災訓練に参加しましょう。

- 家の中に、家具のない安全なスペースを確保する**
部屋が複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えをする。
- 屋根の点検と補強**
アンテナはしっかりと固定する。屋根がわらのチェックをする。ひび割れ、すれ、はがれがある場合は補強する。
- 家・物の強度の点検と補強**
ブロック塀、石畳などの倒壊は、施工上の欠陥によるものが多い。もう一度家や塀を点検し、欠陥があるものは補強する。
- 窓ガラス飛散防止**
ガラスは飛散防止フィルムを貼る。その際、必ずサッシまで貼るようにする。
- ストーブの周辺はすっきりと**
ストーブは離す。ふすま、カーテンなどは離し、人の動きのじゃまにならない位置に置く。
- ガラスの破片に注意**
台所などには座布団やスリッパなどを常備しておく。
- プロパンガス**
ボンベを鎖でしっかり固定する。
- 火災の準備**
消火器、浴槽への水張など消火用水を用意しておく。
- 家具での備蓄**
日常でも取り出しやすい場所に保管しておく。

家具の固定と安全確保

家具を固定しましょう

家具を置く場所や置き方に注意しましょう

家族会議

家族があわてずに行動できるように、ふだんから次のようなことを話し合いそれぞれの分担を決めておきましょう。

- 家の中でどこが一番安全か。
- 昼の場合、夜の場合の分担と避難方法。
- 避難する時は、だれが何を持ち出すか。
- 非常持ち出し袋はどこに置くか。
- 避難場所、避難路はどこにあるか。
- 救急医療品の点検。
- 家族間の連絡方法と最終的におち合う場所はどこにするか。

各種補助制度

- 三島市では、住宅や建築物の耐震化を促進するため、さまざまな補助制度を用意しており、以下にご紹介します。まずは耐震診断により建築物の耐震性を知り、必要な耐震改修等の措置をとることが重要です。
- 1 わが家の専門家診断事業** 木造住宅を対象に三島市から専門家を派遣し、無料で耐震診断が受けられる制度です。窓口電話及び市ホームページ電子申請により申し込みを受け付けています。
 - 2 木造住宅補強計画策定事業** 高齢者等世帯が居住する木造住宅を対象に三島市から専門家を派遣し、無料で補強計画の策定を行います。
 - 3 既存建築物耐震診断事業** 木造住宅の場合は耐震補強工事を行うための耐震補強計画の作成費を、その他の建築物については耐震診断費用に要する経費の一部を助成します。
 - 4 木造住宅耐震補強助成事業** 木造住宅の耐震補強工事に要する経費に対し助成します。
 - 5 ブロック塀等耐震改修促進事業** ブロック塀等の撤去にかかる費用の一部を補助します(撤去事業)。また、地域防災計画で設定されている緊急輸送路、避難路又は避難地等に面するブロック塀等を、安全なものに改善する費用の一部を補助します(改善事業)。
 - 6 家具転倒防止事業** いつ起こるか分からない巨大地震への対策として、家具の固定をお願いします。対象となる世帯に5品までの家具固定器具の取付けにかかる費用を市が負担します。
 - 7 耐震シェルター整備事業** 高齢者等世帯が居住する木造住宅に耐震シェルターを設置する場合、耐震シェルターの設置に要する経費に対し助成します。

地震発生時

落ち着いて行動する為に行動パターンを覚えておきましょう。

地震発生	1~2分後	3~5分後	5分~数時間後
<p>【あわてない】</p> <p>● 落ち着いて行動する。</p> <p>【身を守る】</p> <p>● 机の下に入る。 ● 座布団などで頭を守る。 ● 窓や家具から離れる。</p> <p>【係員、乗務員の指示に従う】</p> <p>● 避難時にエレベーターを使用しない。</p> <p>【天井、荷物棚からの落下に注意する】</p> <p>● エレベーターの中では、すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りる。</p> <p>【運転中は】</p> <p>● キーをつけたまま道路の端に停めて避難する。</p> <p>【屋外では】</p> <p>● ブロック塀や門柱に注意 ● ガラスや看板の落下、切れて垂れ下がった電線に注意。 ● 地下街には約60mおきに出口があるので、あわてず大きな柱や壁に身を寄せて揺れがおさまるのを待つ。</p>	<p>【火を消す】</p> <p>● ガスストーブの火を消す。 ● 火災を消火器等で消す。</p> <p>【スリッパ・靴等を履く】</p> <p>● 家の中でもガラス片で怪我をすることがある。</p> <p>【家族の安全確認】</p> <p>● おどっさん!</p> <p>● 大声で家族の安全の確認を行う。</p> <p>【避難用出口の確保】</p> <p>● 戸や窓を開ける。</p> <p>【土砂災害等の恐れがある場合はすぐ避難】</p>	<p>【テレビ・ラジオで正しい情報入手する】</p> <p>● 近所の人の安否確認</p> <p>【非常持出品の準備】</p> <p>● エレベーターの中では、すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りる。</p> <p>【家屋倒壊の恐れがある場合は避難】</p> <p>【余震に注意】</p> <p>● 協力して助け合おう!</p>	<p>【子どもを迎えに】</p> <p>● 家を出る前に火止のためにガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを切る。</p> <p>【一時避難地に集合】 (地区集会所・近くの公園等)</p> <p>【負傷者への応急手当】</p> <p>● 協力して救護活動を行う。</p> <p>【建物に閉じ込められた人の救助】</p> <p>● 協力して救助活動を行う。</p> <p>【火災の消火活動】</p> <p>● 大声で火事知らせる。 ● 協力して消火活動を行う。</p>

事後

助け合いの心で災害を乗り越えましょう。

数時間~3日程度

状況に応じて冷静に判断

自宅が無事 → **自宅が焼失、全半壊**

【家の被害を点検する】 ● 家の被害を確認する

【定元の片付けをする】 ● 定元の片付けをする

【備蓄品で生活する】 ● 数日間はライフラインが停止することがある。

【ガスの元栓を閉めブレーカーを切る】 ● 避難所の開設状況も踏まえ、避難所を確認する

【近所どうし協力しあって避難所へ】 ● 危険な場所から離れる、近づかない!

【徒歩で避難する】 ● 荷物は最小限に

【避難所では】

- 自主防災組織を中心に行動する。
- 集団生活のルールを守る。
- 助け合いの心で。

【避難の時の服装】

- 頭部は、防災ずきんやヘルメットで保護する。
- 服装は長そでを着用。
- 手袋を着用し、手にはなにも持たない。
- 長ズボンを着用。
- 底の厚い、丈夫な靴。

【要配慮者の支援・協力】

● 高齢者や障がい者など要配慮者の支援・協力は、積極的に行いましょう。

災害伝言ダイヤル「171」

地震など大規模な災害が発生した時、安否の確認や見舞い、問い合わせなどの電話が被災地に集中し、電話が繋がりにくい状況になってしまいます。災害用伝言ダイヤル「171」はこのような災害発生時に、被災地内の電話番号を使って、安否等の情報を音声により登録・確認出来るサービスです。

伝言の録音方法

171 にダイヤルする

録音の場合 1

再生の場合 2

伝言の再生方法

171 にダイヤルする

再生の場合 2

利用可能な端末: 固定電話、公衆電話、携帯電話、PHS

登録可能な電話番号: 1電話番号あたりに01~10伝言

登録時間: 1伝言30秒以内

伝言保存期間: 2日間(48時間:自動消去)

災害用伝言板「web171」

スマートフォン・携帯電話等への対応

連携

登録情報の通知

緊急速報メール(エリアメール)配信について

三島市では、携帯電話向け災害情報伝達システムについて、株式会社NTTドコモが提供する緊急速報「エリアメール」、KDDI株式会社およびソフトバンクモバイル株式会社が提供する「緊急速報メール」の配信を行っております。受信可能な機種や設定方法など、詳しくは携帯電話購入店にお問い合わせいただくか、各社のホームページをご覧ください。

緊急速報メールとは 気象庁が配信する「緊急地震速報」や「津波警報」、国・地方公共団体が配信する「災害・避難情報」などを住民に一斉にお知らせするサービスです。